

「大学における電子メールを再考する」
パネル討論

京都工芸繊維大学における運用事例

京都工芸繊維大学
情報科学センター

梶田 秀夫

京都工芸繊維大学 (KIT)

- ◆ 工芸科学部 (2006年4月～)
- ◆ 生命物質科学域
 - ◆ 応用生物学課程
 - ◆ 生体分子工学課程
 - ◆ 高分子機能工学課程
 - ◆ 物質工学課程
- ◆ 設計工学域
 - ◆ 電子システム工学課程
 - ◆ 情報工学課程
 - ◆ 機械システム工学課程
 - ◆ デザイン経営工学課程
- ◆ 造形科学域
 - ◆ 造形工学課程
- ◆ 学生数 約 4500 人
- ◆ 教職員数 約 500 人

2008年6月6日



情報科学センター (CIS)

- ◆ 学内共同利用の基幹コンピュータシステムと学内情報ネットワーク (KITnet) を活用する基盤情報技術に関する教育研究を行う

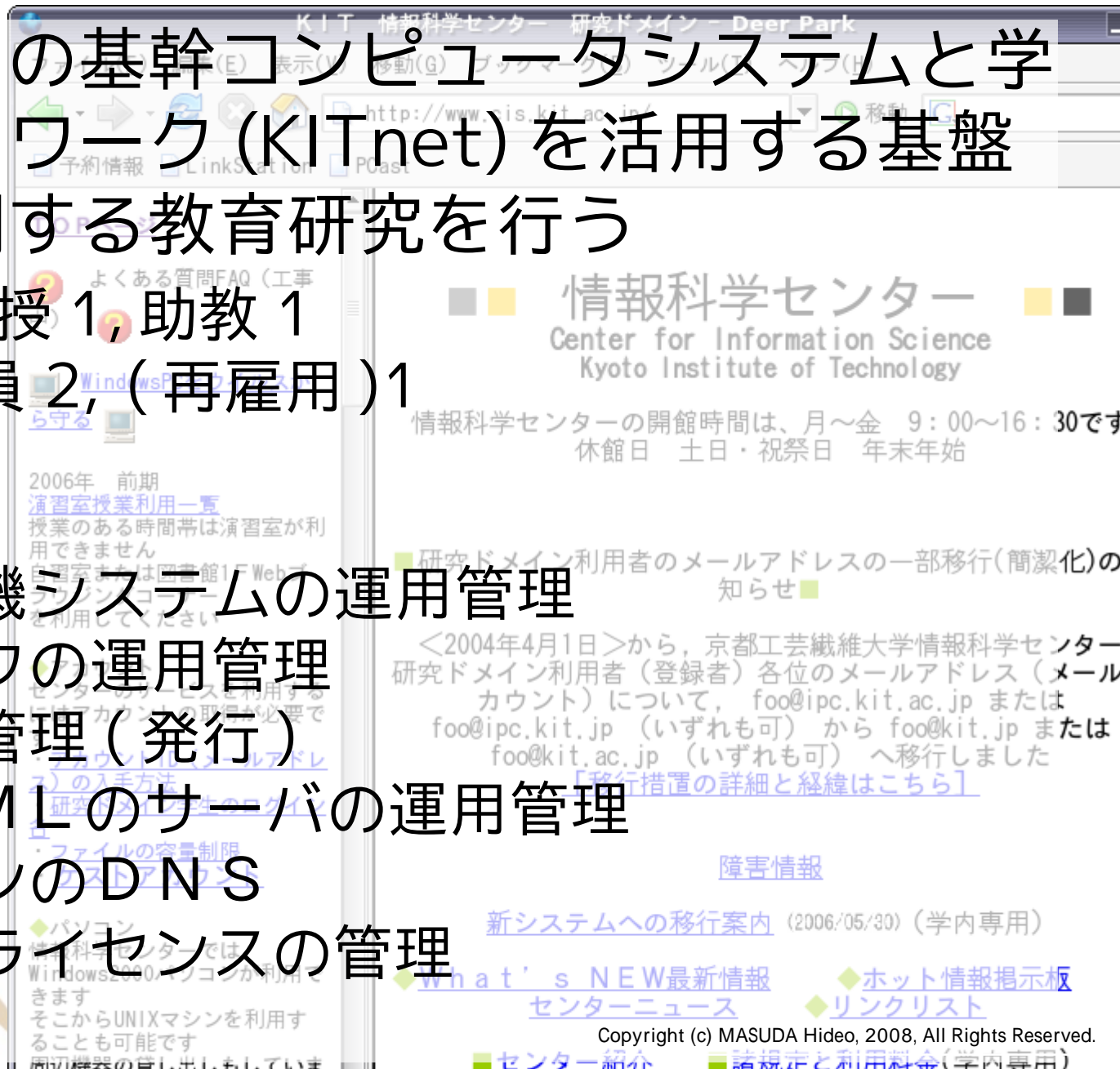
- ◆ 教授 1, 准教授 1, 助教 1
- ◆ 技術専門職員 2, (再雇用) 1

- ◆ 主な業務

- ◆ 教育用計算機システムの運用管理
- ◆ ネットワークの運用管理
- ◆ アカウント管理 (発行)
- ◆ 仮想 Web, ML のサーバの運用管理
- ◆ サブドメインのDNS
- ◆ キャンパスライセンスの管理

- ◆ etc.....

2008年6月6日



提供中の E-Mail サービス

- ◆ センターの アカウント を持つ全ての利用者向け
 - ◆ @kit.ac.jp (教員), @edu.kit.ac.jp (学生)
 - ◆ 学部 / 修士 / 博士で別々のアカウントを発行
 - ◆ アカウントは、卒業年の 6 月末まで残存
- ◆ POP3S, SMTPS が基本
 - ◆ POP before SMTP, APOP も残存 (学内からのみ)
 - ◆ mbox 容量制限あり (200MB(soft)/300MB(hard))
 - ◆ 10MB/ 一通 (SMTP)
- ◆ 転送設定可能 (~/.forward による)
 - ◆ 転送先の制約は無し (携帯や Freemail も OK)

提供中の E-Mail サービス (2)

- ◆ ウィルスチェックゲートウェイサービス
 - ◆ F-secure Anti-Virus Gateway
 - ◆ in-bound だけでなく out-bound にも適用
 - ◆ システムは二重化 (同一 Pref. MX, DNS round robin)
- ◆ ML 運用サービス
 - ◆ majordomo/mailman
- ◆ SPAM 対策サービスは基本的に提供しない
 - ◆ 内容に踏み込まないものは徐々に導入中
 - ◆ HELO/EHLO チェック、逆引きチェック
 - ◆ Greet Pause
 - ◆ VRFY チェック (Gateway)

- ◆ 情報セキュリティポリシーは策定済み
 - ◆ 電子メール限定の話は入っていない
 - ◆ http://www.kit.ac.jp/09/09_120000.html

[サービスポリシーの決定方法]

- ◆ センター次長が技術的な側面から基本方針を決定
- ◆ センター長が決裁をする
 - ◆ 規則実施細則などでは、「センター長が定める」と規定。
- ◆ (必要であれば) 情報セキュリティ運営部へ
 - ◆ 情報担当理事 + センター長 + 情報化推進室長

E-Mail サービスの運用ポリシーの例

- ◆ 転送先の設定に制限は設けない
- ◆ ML には差出人制限をかける（気休め？）
- ◆ 学内組織で独自のメールサーバの運用を認める
 - ◆ ウィルスチェック GW を極力経由するように依頼
- ◆ 学外からのメールサーバへのアクセスは、暗号化対応のものに限る
 - ◆ OBP25 のおかげでスムーズに
- ◆ 内容に踏み込む SPAM 対策の導入はしない
 - ◆ とりあえず Thunderbird で

E-Mail サービスで困っていること

- ◆ SPAM 対策をやってくれ圧力
 - ◆ ユーザサポートコストの増大が懸念される
- ◆ 転送先エラーの多発
 - ◆
- ◆ 信頼性減少 (?) に伴う他サービスへの移行
 - ◆ 業務通知 → Web 掲示のみ (!!)
- ◆ ウィルス対策サーバの負荷増大
- ◆ ウィルス対策サーバへの過信
 - ◆ パスワード付 ZIP ファイルの増加